

聖書：Iサムエル 11：1～15

説教題：主が救ってくださった

日時：2016年5月8日（夕拝）

前の10章ではイスラエルの初代王となるのは誰かという御心が示されました。全部族の前でくじが引かれ、王として示されたのはベニヤミン族のキシユの子サウルでした。彼は王になろうとする野望を持っていなかった人で、くじが引かれる間も荷物の間に隠れていました。しかしついに人々の前に引き出されてしまいます。彼は背が誰よりも高かったため、民の中に立つと肩から上だけ高かった。人々は彼を見て「王さまバンザイ！」と叫びました。その一方、彼が選ばれたことを面白くなく思う人たちもいました。「この者がどうして我々を救えよう」と言って、サウルを軽蔑する者たちもいました。そんなイスラエルが一つにまとまってサウルを支持するようになる出来事がこの11章で起こります。

そのきっかけとなったのはアモン人ナハシュが攻め上って来たことでした。アモン人は東の国の人々で、士師記の時代にはイスラエルに敗れています。その分を取り返そうとやって来たのでしょう。狙われたのはヤベシュ・ギルアデ。彼らは攻め込まれてアモン人に降伏します。1節：「私たちと契約を結んで下さい。そうすれば、私たちはあなたに仕えましょう。」あまりにもあっさりと降伏しています。ここからも当時のイスラエルにはまとまりがなかったことが分かります。本来、他の町や部族に助けを求めるべきところを、彼らはその望みなしと判断した。助けてくれそうな同胞など考えられなかったのでしょう。しかしアモン人の要求は厳しいものでした。彼らは「お前たちの右の目をえぐり取るという条件で契約を結ぼう」と言います。ヤベシュの人々はもちろん、このような条件は受け入れたくありません。そこで3節で「七日の猶予を与えてください。」と言います。イスラエルの中に私たちが救う者がいるかどうか確かめたいのです、と。それに対して何とナハシュはOKを出します。何というお情け、いや何という余裕ぶりでしょうか。彼はたとえヤベシュが全イスラエルに助けを呼び求めても、強力な援軍がやって来るはずはないと確信していたのでしょう。むしろそのことを試みても、何の助けも得られない彼らの哀れな姿を面白おかしく見てやろうと考えていたのでしょう。ヤベシュの町からの使いは4節でギブアに来てこのことを告げます。するとそれを聞いた人々の反応は「みな、声をあげて泣いた。」というものでした。このニュースを聞

いてもどうにもできない。イスラエルは一致協力してアモン人と戦うような状態にはない。そこでただ泣くことしか彼らにはできなかつたのです。

ところがここにただ一人、違う反応を示した人がいました。それはサウルです。彼はこの時、牛を追って畑から帰って来ました。なぜ王に選ばれたはずの人が、ここでこんなことをしていたのかと思うかもしれませんが、まだ彼は正式な王としては立てられてはいなかつたのです。くじによって主の御心は示されましたが、王制は確立していなかつた。ところがヤベシュの人々の話を聞いた時、サウルに神の霊が激しく下りました。彼は 10 章 10 節でもこのような経験をしましたが、再び上からの霊の導きを受けたのです。すると彼の怒りは激しく燃え上がります。イスラエルの神の御名が汚されていることに対する聖なる義憤です。そして彼はスゴイことをします。7 節で、一くびきの牛を取り、これを切り分け、それを使者に託してイスラエルの国中に送り、「サウルとサムエルとに従って出て来ない者の牛は、このようにされる。」と言わせました。あの荷物の間に隠れていた臆病者のサウルの姿とはとても思えません。別人のような姿です。すると結果はどうだったでしょうか。「民は主を恐れて、いっせいに出来来た。」とあります。「いっせいに」という部分には印が付いていて、欄外の注を見ると、直訳では「ひとりの人のように」とあります。内部はバラバラで、とても一致団結して協力できるとは思われなかつたイスラエルが、奇跡的に「ひとりの人のように」動き始めたのです。その結果、集まった民の数は、8 節にある通り、合計 33 万人にもなりました。彼らは 9 節で力強い宣言を語っています。恐れているヤベシュの人々に、「あすの真昼ごろ、あなたがたに救いがある。」と言います。そしてサウルは先頭に立って力強く行動します。この時の彼の姿は、前に見た有名なさばきつかさたちの姿を彷彿とさせるものです。神の霊が激しく下り、怒りが激しく燃えた姿は誰を思い起こさせるのでしょうか。それはあの怪力サムソンです！また 11 節にあるように、民を 3 組に分けて奇襲作戦に出た姿は誰を思い起こさせるのでしょうか。それはギデオンです！こうしてサウルに導かれたイスラエルの民はアモン人を圧倒します。先の状況からは考えられない素晴らしい大勝利を収めたのです。

こうしてついにサウルの王権が確立されることとなります。12 節で民はサムエルに言います。「サウルがわれわれを治めるのか、などと言ったのはだれでしたか。その者たちを引き渡してください。彼らを殺します。」 前の章の 27 節で見た人々

のことです。サウルはあの時は言い争わず、こうして結果をもって彼らに答えたのです、しかし素晴らしいのは 13 節のサウルの言葉です。「しかしサウルは言った。『きょうは人を殺してはならない。きょう、主がイスラエルを救ってくださったのだから。』」 サウルは驚くべき寛大さを示しています。彼は、主が私たちを恵み深く、あわれみ深く扱って下さったのだから、私たちも他の者にそうしなければならないと言っています。ここにサウルがいかにかこの戦いで主により頼み、またその主にすべての栄光を帰そうとしているかが示されています。もしこの勝利は自分が勝ち取ったのだと考えていたなら、この私を認めず、侮辱した者には厳しい罰を与えようということにもなったでしょう。しかし彼は「私たちをきょう、救ってくださったのは主である！」と言っています。だから主に感謝して、私たちも他の者に同じようにすべきではないか！と言ったのです。何という素晴らしい王でしょうか。最高のリーダーシップでしょう。

そこでサムエルは「さあ、ギルガルへ行って、王権を創設する宣言をしよう。」と言います。すでに王を選出するプロセスは経ましたが、いよいよそれを正式に確立するセレモニーを開こう！ということです。民はギルガルへ行き、サウルを王としました。そこで主の前に和解のいけにえをささげました。そうして「サウルとイスラエルのすべての者が大いに喜んだ」と最後の部分にあります。これはイスラエルにとっても、サウルにとっても、最高に幸せな時だったでしょう。彼らは主の導きによって大勝利を得ました。そして新たに誕生した王は、主こそ我々を救って下さった方だと言っています。真の望みのもとである主を正しく自分たちに示してくれる王です。そのもとで、よりよく主に目を上げ、主を賛美し、主の救いを喜んだイスラエル。このように主に心を向け、主に信頼し、主に栄光を帰す時に、私たちは「大いに喜ぶ」という、ここで彼らが味わったような祝福に生きることができるのです。

さて以上のサムエル記 11 章から私たちは何を自分に当てはめて学ぶことができるでしょうか。まずここに示されている真理は、私たちの救いは主から来ることでしょう。イスラエルがこの章最初の部分で置かれていたのは絶望的な状況でした。人間の目には何一つ良いことはありませんでした。ただ泣き叫ぶことしかできませんでした。ところがこの章の終わりでは丸っきり反対の状況に行き着いています。彼らは大いに喜びました。どうしてこのようなことになったのでしょうか。

それは「ただ主によって」ということでしょう。ですから私たちもこの章前半のような厳しい状況にあったとしても、それで絶望してしまっはならないのです。主が働いてくだされば、どんなことが起こるか分からない。主の霊の働きによって、自分たちの今の状況がどんなに正反対の方向へとひっくり返るか分からない。救ってくださるのは主です。私たちは主を見上げ、主に信頼し、主の霊の導きを祈り求めたいのです。

しかしこれはどういうことなのでしょう。私たち一人一人が個別に上からの霊の注ぎを求めるといことなのでしょう。2つ目に覚えたいのは、今日の章のメッセージは、神が立てたもう王によって神の民は祝福されるということです。サウルがこのような霊の注ぎを受けたのは、彼が神によって王として立てられたからです。神がこのことにおいて示そうとしていることは、神が将来与えてくださるまことの王メシヤはこのような方であるということでしょう。このサウルはこの時代に生きた単なる一人の王というだけではないのです。ここで王として立てられ、先頭に立って戦ったサウルの姿は、やがて同じく神によって立てられ、救いのみわざをなすまことの王イエス・キリストの姿を映し出すものです。サウルはここで神の霊の油注ぎを受けて王としての働きを力強くなしましたが、イエス様も同じです。イエス・キリストの「キリスト」とは「油注がれた者」という意味ですが、イエス様はバプテスマのヨハネから洗礼を受けた時に聖霊の注ぎを豊かに受けられました。そして私たちに先だって私たちのための戦いを戦って下さいました。そして私たちの真の敵を打ち破ってくださいました。ですからこれはやがて私たちに当たられるイエス・キリストの絵なのです。神はこのような救い主、まことの王を私たちに与えて私たちが救ってくださいるといことなのでしょう。

それゆえに三つ目の点として私たちが心に留めて自分に適用したいことは、この神が立ててくださるまことの王に私たちは信頼して従うということでしょう。確かに歴史の中に出て来た様々な王は不完全です。ある時は良くて、ある時はがっかりするような姿を示します。このサウルもやがてそういう姿をさらけ出してしまいます。しかし王はみなそうであると思っはなりません。やがて来るイエス・キリストは完全な王です。そしてすでに決定的な勝利を勝ち取ってくださった王です。ですから私たちに必要なことは、このまことの王に信頼の目を上げ、この王に従う歩みをするこことではないでしょうか。この時のイスラエルもサウルの指令に従いま

した。彼の後について、彼とともに戦いました。それは私たちにとっても同じでしょう。日々、様々な戦いが私たちの前にはあります。様々な難題が次々に現れます。絶望しそうな壁がいくつもいくつも立ちはだかります。しかし私たちとともにいるのは、サウルよりはるかに素晴らしい、まことの油注ぎを受けた王です。豊かな神の霊を受けた救い主です。そして十字架にまでも踏み進み行き、最後の敵さえも滅ぼしてくださった救い主です。その方を見上げて今週も主の民として、私たちはこの方に従う歩みをささげたいのです。どんな課題を前にしても、この方が先頭に立って導いてくださいます。この方こそ神が私たちに与えてくださり、私たちを完全に救ってくださるまことの王です。その方を見上げて希望を持って戦い、この方がくださる大勝利と御国の祝宴の喜びへと至る日々の戦いを、信仰を告白して戦って行きたいと思います。